

# 返還30年 岐阜の 赤羽刀総覧

— 美濃伝をたどる —

短刀 銘 兼元(関鍛冶伝承館蔵)※展示は関鍛冶伝承館

- [会場] 岐阜県博物館 特別展示室・企画展示室
- [会期] 令和6年4月20日(土)～6月23日(日)
- [時間] 9:00～16:30 (入館は16:00まで)
- [休館日] 毎週月曜日 但し、4月29日(月祝)・5月6日(月振)は開館、4月30日(火)・5月7日(火)休館
- [料金] 一般340円(280円)、大学生110円(50円)、  
高校生以下無料 但し、( )内は20名以上の団体料金
- [主催] 岐阜県博物館、中日新聞社
- [後援] NHK岐阜放送局

刀剣撮影：中村慧

脇差 銘 丹波守藤原照門／寛文十年二月吉日(岐阜県博物館蔵)

# 返還30年 岐阜の赤羽刀総覧 - 美濃伝をたどる -

脇差 銘 陸奥守大道 / 文禄三年八月日 (関鍛冶伝承館蔵)

薙刀 銘 濃州住兼国作 / 慶長二年丁酉八月吉日 (関鍛冶伝承館蔵)

接收刀剣類、いわゆる「赤羽刀」返還からまもなく30年になることから、岐阜県内の赤羽刀を総覧する展覧会を開催します。赤羽刀とは、第二次世界大戦後、日本の武装解除の一環でGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)に接收された後、文化財として返却され、全国の公立博物館等に無償譲渡された日本刀です。これらの赤羽刀は廃棄前提の保管によって保存状態が悪く、研磨等の整備が必要です。関市は現在も多くの刀剣関係の職人(刀職)が活躍する中世以来の刀剣産地であり、岐阜県博物館の所在地でもあります。そのため、関市は全国最多の赤羽刀を受領し、当館も多くの赤羽刀を所蔵しています。

本展は、関市・岐阜県博物館の整備済み赤羽刀を主に、美濃鍛冶の始まりである西郡・赤坂鍛冶から最盛期の関鍛冶、さらに幕末の美濃刀まで、約70振りを展開します。また、関市において同じタイトルを冠した連携展覧会を同時開催し、岐阜県博物館を含む市内3会場で、併せて100振りを超える美濃ゆかりの赤羽刀が一望できます。古くは室町時代の兵変から先の戦争まで、あまたの戦乱を潜り抜け、多くの先人の努力で伝世された郷土刀の大コレクション群と出会うまたとない好機となります。ぜひ来場・鑑賞ください。

太刀 銘 氏房 (関鍛冶伝承館蔵)

## 関連催事

### 講演会 1 「関市の赤羽刀整備事業について」

講師：江西奈央美 (関市観光課・関鍛冶伝承館学芸員)  
日時：令和6年4月28日(日) 13:30～15:00  
会場：岐阜県博物館 けんぱくホール  
定員：120名 (要予約・先着順) ※申し込み方法は、ホームページをご覧ください。

### 講演会 2 「赤羽刀と日本刀の魅力：様々な視点から」

講師：福井款彦 (三重県・愛知県銃砲刀剣類登録審査委員)  
日時：令和6年5月19日(日) 13:30～15:00  
会場：岐阜県博物館 けんぱくホール  
定員：120名 (要予約・先着順) ※申し込み方法は、ホームページをご覧ください。

[コラボ企画] スタンプラリー (岐阜県博物館、関鍛冶伝承館、関市わかくさ・プラザ)

## 関連展示

「美濃伝の継承者たち：岐阜の赤羽刀総覧」

会場：関鍛冶伝承館 (関市) 企画展示室

サテライト展示「美濃伝の継承者たち：岐阜の赤羽刀総覧」

会場：わかくさ・プラザ (関市) 特別陳列室

## 交通案内



- 東海北陸自動車道 関インターから車で5分
- 岐阜バス(小屋名バス停下車 徒歩20分)  
※岐阜駅方面からは、岐阜バスターミナル又はJR岐阜駅14番乗り場でご乗車ください。  
(岐阜関線、岐阜美濃線)  
※関駅からは、関駅西側の関シティターミナルバス停からご乗車ください。(岐阜関線)
- 関シティバス(百年公園バス停下車 300m)  
※関駅からは、関駅西側の関シティターミナルバス停からご乗車ください。  
(わかくさ・小金田線、わかくさ・千正線)

お車でのご越しの方は岐阜県百年公園北口駐車場(無料)をご利用ください。  
北口から博物館まで300mです。  
歩行が困難な方は博物館入口までお車の乗り入れができますので、  
百年公園管理事務所でお申し出ください。

※南口駐車場から博物館までは、徒歩約2km(勾配有り)です

岐阜県博物館 ～ 関鍛冶伝承館 アクセス

- 岐阜バス「せき東山行き」「小屋名」から乗車、「本町5丁目」下車 徒歩8分
- 関シティバスわかくさ・小金田線「中濃厚生病院行き」「百年公園」から乗車、「関郵便局前」下車 徒歩8分

